

◎シリーズ 長岡京歴史散歩

120

長五小学校区の遺跡
西山田遺跡

長岡第四中学校建設に先立つ発掘調査で、長

岡京時代の大規模な祭りの跡が見つかりました。

立地はちょうど小泉川と菩提寺川が合流する南側にあたるところで、古い川原の跡が確認され、その中から祭りに使われた遺物が大量に出土しました。見つかったのは土馬^{どば}、ミニチュアカマド^{ぼくしよじんめんどき}、墨書人面土器^{ぼくしよじんめんどき}などで、いずれも長岡京のころにまじないに使用されたものです。おそらくほかにも人形^{ひとがた}など木製の遺物があったと思われませんが、残念ながら腐ってしまい残されていませんでした。これらは病気や怪我あるいは目に見えない汚れ^{けが}から身を守るために使用され、長岡京ではよく見つかるものですが、これだけ一度に大量に見つかるのは非常に稀^{まれ}なことでした。この発見により西山田遺跡と命名されました。

西山田遺跡は、長岡京の中ではちょうど南西のはずれ近くにあたっていて、最初は大量に遺物が出土するとはまったく予想されない場所でした。出土量からみて単に個人や家族といった規模ではなく、もっと大きな国家レベルの祭りと考えられます。実はこのような祭りの跡は、長岡京でほかに3カ所確認されています。南東部では水垂遺跡^{みずたれ}（京都市）、北東部では大藪遺跡^{おほやぶ}（京都市）、そして北側では最近見つかった古城遺跡^{こじょう}（向日市）があり、共通するのは、祭りに使用された遺物が非常に多種・大量であることと、川が関係している点です。また各遺跡はいずれも都の縁辺部に位置していてちょうど長岡

京を囲むように見つかっているのです。

当時は毎年6月と12月の最後の日に都の中に疫病が入らないように、そしてわが身の罪・汚れを清めるために大規模な祭りが行われていました。奈良時代には行なう場所は限定されていましたが、平安時代になると都の中の数カ所と周辺地に広がっていきます。長岡京でのあり方はまさに平安時代につながる祭りの源流であると言えます。



▲ 西山田遺跡から見つかった土馬とミニチュアカマド